

住宅研究部 海外出張報告 ISO/TC205: 建築環境設計

- ISO/TC205: **建築物の省エネルギーや室内環境に関する設計手法**の国際規格を作成する会議に、国総研の研究者が参加しました。これらの規格は、各国の建築物の脱炭素・省エネルギー規制等と大きく関係します。
- WG2: 省エネ設計では、ゼロエネルギービルの評価法の規格化、WG10: コミッショニングでは、性能検証プロセスの規格化の審議がなされ、規格の成案化にむけて段階が進みました。

WG2: Design of Energy-efficient Buildings

ISO TS 23764:2021, Methodology for achieving non-residential zero-energy buildings (ZEBs) の改訂について審議(主査: 東京理科大学・野中教授)

→ 日本発案。日本のZEB評価方法(ZEBの種類、建築物省エネ法におけるエネルギー消費量算定方法等)をベースに作成
→ 規定内容については改定意見なし。東南アジア諸国のZEB事例の追加で掲載することを決定。来年春にCD投票。

ISO/WD 22511: Design process of ventilative cooling systems の作成作業

→ 日本発案。外気利用冷房システムの設計プロセスの規格化。システムの定義や分類等について議論。
(R7開始の事項立て課題とも関係)



WG10: Commissioning

ISO/CD 24359-1, Building commissioning process planning – Part 1: New buildings のCD投票結果について審議(主査: 国総研・宮田主研)

→ 米国発案。コミッショニングプロセス(計画段階において性能に関する要求事項を具体化し、設計・施工・運用段階を通して性能を継続的に検証することで、より質の高い建築物を確実に実現する手法)の国際規格化。
→ R6.9にCD投票完了。指摘事項(設計者の役割、検証実施者の第三者性)等について議論。DIS段階に進むことを合意。

(参考) **ISO 19455: 2019, Planning for functional performance testing for building commissioning**
→ 日本発案。事項立て(H28-30)の成果を国際規格化。R7年に見直し予定。



これらの規格制定は、**国際標準版BRIDGE**で検討中の「**既存建築物のZEB化改修設計手法の開発**」と関係

東南アジア諸国における建築物の脱炭素化・省エネルギー化を支援することを目的として、日本の省エネ性能評価法の適用範囲を拡張し、東南アジア諸国の建築物にも適用可能な新たな評価法を開発(高効率エアコン等の日本の省エネ技術の国際展開を加速)

出張者: 住宅研究部建築環境研究室 主任研究官 宮田征門
出張件名: ISO/TC205「建築環境設計」年次会合への出席
出張先: フランス(サン＝ドニ)
出張期間: 令和6年9月29日～10月5日
費用負担: 科学技術イノベーション創造推進費(BRIDGE)